

住民協議会だより

おのえ

第19号

おのえ住民協議会 <小野江町396番地 TEL.0598-56-7506 (午前中のみ)> 2018.11.1



一年間の減災訓練活動をふり返って

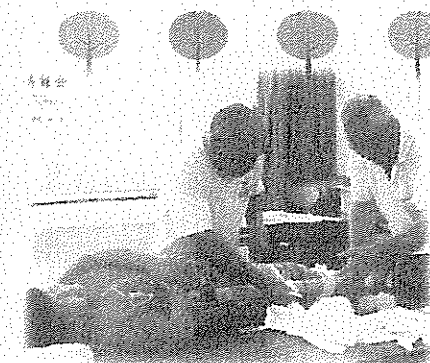
6月17日 「心肺蘇生法」に参加して

心ばいせい法をして、思ったことは、はじめはやり方もわからず、きんちょうして、みんなの前ですることができなかつたけど、自衛隊(元)の人に教えてもらったので、地いきの前ですることができました。

教えてもらった方法は、まずたおれている人がいたら、「だいじょうぶですか。」と言いながら、かたをたたいてから、息をしているかどうかかくにんして、もしも息をしていなければ、むねのまんなかぐらいに両手をおいて、せいざをして、ひじをまげないようにして力をいれて、息をふきかえしてくるまで、むねをおす。

自分が学んだことは、心ばいせい法のやりかたを自分じしんが身につけることができました。

こんどは自分がひとりでやらなければいけないときがあるかもしれないから、それにむけて、きちんと練習しておきたいです。【小野江小学校4年 石田 暖人】



7月29日

「応急手当講習会」に参加して

防災訓練には参加した事はありますが、このような手当法に参加するのは初めてでした。講師の方の災害救助の実体験を聴いていると、頭の中でその状況が思い浮かんで来て、自分ならどう対応するかな、冷静になれるかなと考えさせられることばかりでした。

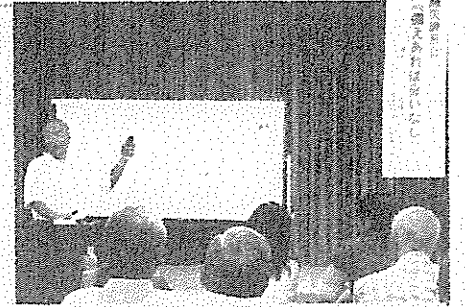
今、各地域でさまざまな災害が起きている中、もっと自覚を持って、防災意識を高めていかなければいけないと思いました。このような場に、もっと参加して、地域との繋がりを持つ事も大切だと思いました。【舞出町 井上 えり子】



包帯、うまく巻けるかなあ

7月15日 「減災講演会」

自然災害への『警鐘』を 鳴らす野崎 裕氏



「自然の力は凄いなあ...」。7月15日(土)、おのえ住民協議会主催の減災講演会に於いて、熱っぽく語られた野崎裕氏の講演を聴き終えた私の率直な感想である。私は、機会あるごとに講演を食い入るように聴いている。野崎氏の講演は、幾度聴いても快く、聴けば聴くほど腹にストンと落ちる。それもそのはず、氏は、実体験を元にした内容を巧みに組み合わせ、身体一杯に熱情を込めて聴衆である私たちに語りかけるのである。人は人に語る時、机上の理論のみを振りかざし、恰(あたか)も理路整然と言葉を発する場合が、往々にして多い。野崎氏の場合は否(いな)である。現場での生々しい体験が身体と頭に入っている。そこに理論・学論を添えたり、挟み込んだりしながら、聴衆を引きつけていくのである。これはなかなか出来ないことだと思う。

ところで、野崎氏は、現職自衛官の時代、小隊を束ねる指揮官としての職務を、かつて発生した阪神淡路大震災の被災現場に於いて、全うした豊かな経験を有する。だからこそ「自然災害の凄さ」及び「被災現場の悲惨さ」を、人々に伝えることができ、予期せぬ時に突如、発生する自然災害への「警鐘」を鳴らし続けることができるのである。

さて、前述の減災講演会に於いて、氏は、ここ30年未満以内に発生すると報じられている『東南海地震への備え』を中心話題として取り上げた。その時の私はこうである。「その時まで私は生きていだろうか。多分、生きていないだろう。」つまり、危機意識が乏しいのである。恐らく聴衆の大部分は、私と同様なのではないかと推測する。

しかしである。昨年から今年の日本列島は、次から次へとかぶさるように押し寄せる自然災害に見舞われた。熊本大地震・広島を筆頭とする豪雨災害・大型台風襲来による暴風雨災害...。その度に『膨大な被害の現実』が私たちにつきつけられたのではないか。そして更に、『平成30年 北海道 胆振(いぶり)東部地震』発災。しかも、武四郎ゆかりの「厚真町(あつまちょう)」が震源地である。

私は、思う。野崎 裕氏は、私たちに『自然災害への警鐘』を鳴らし続けているのだと。

【小野江コミュニティセンター(松浦武四郎記念館) 館長 中野 恭】



10月21日 『減災訓練』

青空の下、自治会広場を出発。初めて見る車いす(災害時対応)に、興味津々の子どもたち。地域の人に乘っていただき、その身体の重みだけでなく、有事に備えて、自分の果たすべき役割の重みをしっかりと感じながら、小学校までの道程をしっかりと踏みしめることができた、貴重な体験だったと思います。

体育館では、救護体験。3つの大切な要素を念頭に、自分自身の貴重な知識として貯蓄することに加えて、実体験として更に理解を深めることができる、大変よい機会となりました。分かりやすい講習をありがとうございました。

最後は、美味しく、温かい炊き出しのカレーをいただき、心も身体もポカポカに温まって、幸せな気持ちで帰路につくことができました。

本日の体験のために、尽力していただいた地域の皆さん、貴重な時間を本当にありがとうございました。【甚目町 鈴木 寛子】



たなばたまつり 7月9日

7月7日に小野江神社周辺で予定していた「たなばたまつり」ですが、台風による雨が降りやまず、急きよ、7月9日、場所を小野江コミュニティセンターに変更しました。地域の皆さんへの周知をはかるために、コミセンの協力を得て、北幼稚園・小野江小学校に、変更と参加への紹介をしていただきました。先生方の協力・保護者の皆さんの参加意欲を得て、大勢の子どもたちがはしゃぐ姿に触れ、感動と喜びの沸き立つ、素晴らしい『たなばたまつり』になりました。

キッズファーマーズの皆さんが育てた野菜はたくさん売れたかな？手作りのちょうちんの元で、炙りもろこし、わたがしを作る人たちの顔は、汗まみれで「大変だ。」との声に、笑顔が浮かび、「たくさん来てくれたな。」と、疲れが飛んで行ったようでした。

コミセンサークルの『桐の花』さんの、琴の音に、日本の「たなばた」を感じました。『レイナニ』さんの、フラドレスの水色の、しなやかな動きに“涼”を感じました。たたいても割れないスイカに苦戦をして、やっと割れた喜びとともに、子どもたちの目に入った桃色のスイカに、絶句する姿…。とても愉快的「たなばた」でした。大勢の皆さんにありがとう。楽しくて、チョット大変な夜でした。



キッズファーマーズによる野菜販売

活動報告

第12回「小野江地区ふれあいフェスタ」

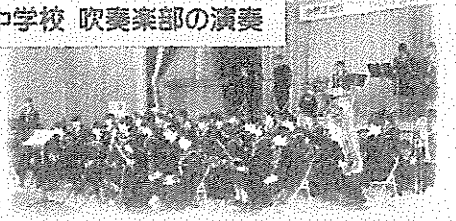
ふれあいフェスタあれこれ 10月14日

お天気に恵まれた中、ふれあいフェスタが開催されました。このフェスタは、なんとといっても子どもたちの参加が、会場を盛り上げてくれました。ブラスバンドの演奏では、どの生徒さんも輝いて見えました。舞台の上でドラムを演奏していた男の子の笑顔が素敵で、心がほっこりになりました。外に出ると、農産物売り場で、大きな声を出して売っている小学生の姿に、つい買ってしまいました。

また今年から始まった小学校のPTAの“ときめきバザー”も、会場に花を添えてくれました。ときめきバザー
シルバー席では、今年も参加できたことを喜んでみえ、元気に競技にも参加されました。

この会の成功の一番の要因は、スタッフの働きによるものではないでしょうか。スタッフの適材適所の配置は見事でした。

【太田 功子】



りんごにぶどう、いかがですか



樽ころがし

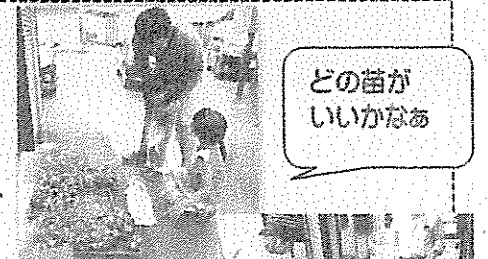


パン食い競争

“家庭菜園”フロッコリー苗の配布

9月22日から配布をしましたが、初日からたくさんの方に御越しいただき、2日間で終了しました。取りにみえた方から、「前にいただいたミニトマトの苗も大きく育ち、美味しくいただきましたよ。」とのお声を、たくさんいただきました。皆さん、成長と収穫を楽しみにされているようです。

また来年度も引き続き、苗の配布を行っていく予定ですので、楽しみにしてください。



どの苗がいいかなあ

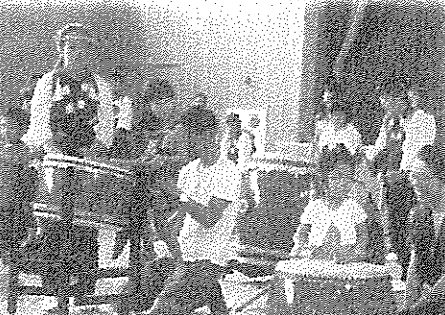
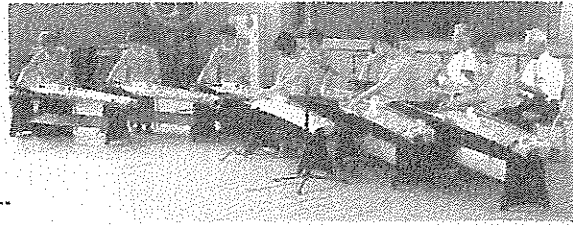


おのえきずなまつり 9月16日

この街に、この地域に「きずな」を育てたい。平成27年度から、そんな思いで「きずなまつり」を始めました。

箏(こと)と尺八の音に耳を傾け、孫たちが踊る『ヒップホップ』に、頬を躍らせる。穏やかに心に染み入る、『みんなでコーラス』の天使のような歌声。幼い子たちに、大きな太鼓を打たせようとしているお母さん。皆さん何かを、感じてくれているようです。

そして、ご協力をお願いした、北海道の被災地への義援金も15,826円と、たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。



響座さんによる太鼓たたき体験

あいさつ運動ポスター3作品、看板に！

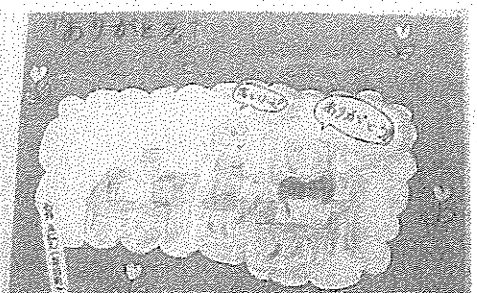
昨年に引き続き、小野江小学校の夏休みの作品応募で、「あいさつ運動ポスター」(小野江小学校区を明るく、元気なまちにしていけるために)を募集したところ、3点の応募があり、看板を作成しました。今回の作品は、小野江小学校とローソン<小野江店>さんに、掲示をしてもらいました。ぜひ皆さん、お立ち寄りの際には見てくださいね。



山口 真徳さん(舞出町)



駒田 時臣さん(肥留町)



石井 縁さん(甚目町)